



取組みの主な進捗状況

生活のDX

「ふくいはいびコイン」の利用がますます拡大



福井県内で利用できるデジタル地域通貨「ふくいはいびコイン」は、ユーザー数が20万人を突破し、ますます利用が拡大しています。

本年度中には、物価高対策として、県産米を購入した県民に「ふくいはいびコイン」を付与する事業を県内のふくアプリユーザーを対象を広げて実施する予定です。

今後も官民が連携し、さらなる利用促進に取り組みます。

DXで高齢者の通院をサポート

敦賀市は、市内の一部地域に住む75歳以上の高齢者を対象に、通院支援タクシー「おでかけタクシーとんとん号」の実証運行を開始しました。



利用者が乗車時にQRコード付きの利用カードを提示し、運転手がタブレットで読み取ることによって運賃の半額を自動補助します。

運転手の事務負担軽減と利用者の利便性向上を図ります。

産業のDX

県内企業のDX推進を後押し



公益財団法人ふくい産業支援センター主催の「ふくいDX経営塾」が開催されました。企業の経営者等は、自社のDX戦略を自ら立案・実行するため、必要な知識や実践的なスキルを学びました。

11月の最終回では、参加企業が自社のDX経営計画を策定し、今後の取組みに向けた具体的な方針を発表しました。

観光課題解決に向けてアプリ開発提案

北陸三県の観光連盟職員やエンジニアなどが観光に関するデータを活用してアプリを開発する「オープンデータハッカソン」が敦賀市で開催されました。

福井チームは、観光地を訪れた人の満足度やおすすめ度などの指標を他自治体と比較できるアプリを作成し、自治体の観光戦略立案などに活用できることをアピールしました。



行政のDX

下水道点検にドローン活用



老朽化したインフラの点検や更新が課題となるなか、県は小型ドローンを使った下水道点検の研修会を九頭竜川浄化センターで開催し、県内市町の下水道事業担当者が参加しました。

ドローンを活用することで、作業員の安全を確保した上で、効率的な調査が可能となります。

今後も研修会を企画して市町での導入につなげていきます。

デジタル女子部ひよこ隊 市町に展開

県のデジタル女子部ひよこ隊は、市町職員にも対象を広げ、鯖江市内でキックオフイベントを開催しました。

DXによる業務改善の取組みを県内全域に広げていきます。

県内3市および県の女性職員14名が日頃の業務で非効率に感じる点について意見交換し、生成AIなどのデジタルツールを使って仕事のやり方をより良く変える方法を考えました。



最近の県内の動き

総合防災訓練で防災DXを確認

福井県総合防災訓練が11月に越前市で行われ、最新技術を活用した防災DXを確認しました。

県が導入した災害時でもネット接続可能な衛星通信「スターリンク」を初めて訓練で使用したほか、LINEを活用したシステムを用いて避難所の受付をしました。また、ドローンによる物資運搬や自動飛行での被害情報収集にも取り組みました。

これらのデジタル技術を積極的に活用することで、災害時の情報共有や避難支援の迅速化を図ります。



「ふくいコンシェルジュ」の機能が拡充

県や市町が発信するイベント情報や施設予約などの行政サービスを集約するポータルアプリ「ふくいコンシェルジュ」の機能が拡充されました。

9月からは、震度速報や気象警報などの災害関連情報を取得できる機能が追加され、災害時にお住まいの市町の情報をプッシュ通知で受け取れるようになりました。

より暮らしに便利なアプリに進化しましたので、ぜひこの機会にダウンロードして利用してみてください！



ビデオ通話で聴覚障がい者等の来訪に対応

福井県警察は、聴覚障がい者等の方の利便性を向上させるため、スマートフォンのビデオ通話越しに警察署に電話ができるシステム「手話リンク」（一般財団法人日本財団電話リレーサービス提供）を導入しました。

勤務員不在時の交番・駐在所を訪れた聴覚障がい者等の方がスマートフォンで、施設に掲示されたQRコードを読み取ることで、手話通訳オペレータを介して警察署員とのやり取りが可能になります。

警察官が件事故で出動している場合に備え、24時間体制で受け付けています。

※分庁舎に併設の福井署松岡交番、鯖江署朝日交番は除きます。

